

製品名: Dok-1 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab10105

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	52kDa

抗原情報

遺伝子名	DOK1
別名	DOK1; Docking protein 1; Downstream of tyrosine kinase 1; p62(dok); pp62
遺伝子 ID	1796.0
SwissProt ID	Q99704
免疫原	抗血清はヒト p62 Dok 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 329-378

背景

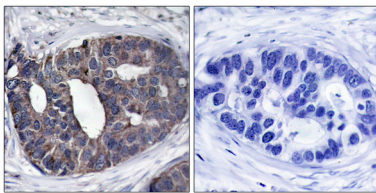
ドッキングタンパク質 1 (DOK1) ホモサピエンス この遺伝子によってコードされるタンパク質は、受容体チロシンキナーゼの下流のシグナル伝達経路の一部です。コードされるタンパク質は、多タンパク質シグナル伝達複体の組み立てのためのプラットフォーム

形成を助ける足場タンパク質です。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションがみついています。[RefSeq 提供、2016年1月],ドメイン: PTB ドメインは受容体相互作用を媒介します。機能: DOK タンパク質は酵素的に不活性化アダプターまたは足場タンパク質です。これらは、多分子シグナル伝達複合体の組み立てのためのドッキングプラットフォームを提供します。DOK1 は、インスリンシグナル伝達経路の負の調節因子であると考えられます。ITGB3 上の同じ結合部位をタリンと競合することにより、インテグリンの活性化を調節します。PTM: 恒常的にチロシンリン酸化されています。PTM: インスリン受容体キナーゼによってチロシン残基がリン酸化されます。インスリンシグナル伝達経路の負の調節をもたらす。類似性: DOK ファミリーに属する。タイプ A サブファミリー。類似性: IRS 型 PTB ドメインを 1 つ含む。類似性: PH ドメインを 1 つ含む。サブユニット: ABL と相互作用する (類似性による)。RasGAP および INPP5D/SHIP1 と相互作用する。リン酸化 ITGB3 と直接相互作用する。組織特異性: 膵臓、心臓、白血球、脾臓で発現する。休止期および活性化末梢血 T 細胞の両方で発現する。

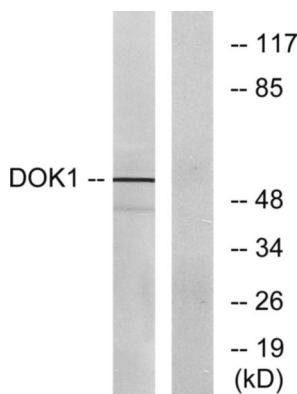
研究分野

B 細胞抗原

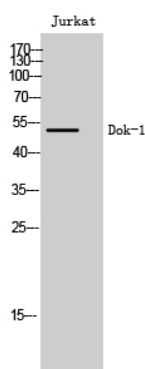
画像データ



p62 Dok 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



p62 Dok 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



Dok-1 ポリクローナル抗体を用いた Jurkat 細胞のウェスタンブロット解析